



日本私立歯科大学協会広報

第83号
令和4年3月

（巻頭言）

歯科医師過剰キャンペーンに振り回される歯科医療

小川 彰 2

（大学のニュース）

○北海道医療大学歯学部

- ・日本再生歯科医学会第19回学術大会で優秀発表賞（大学院生部門）を受賞..... 4
- ・第34回口腔診断・第31回口腔内科学会合同学術大会で本学教員が大会長賞を受賞..... 4
- ・本学が日本赤十字社より銀色有功章を受章しました..... 4

○岩手医科大学歯学部

- ・本学受験生サイトで開催中のWEBオープンキャンパスがリニューアルされました..... 4
- ・動物慰靈祭が行われました..... 5
- ・感染症対策センター整備工事の起工式が挙行されました..... 5
- ・附属病院と内丸メディカルセンターでクリスマスのサプライズイベントが行われました..... 6

○奥羽大学歯学部

- ・コロナワクチン大学拠点接種を実施..... 6
- ・奥羽大学歯学会の開催..... 6
- ・大学院研究経過発表会の開催..... 7
- ・休日・夜間時の自衛消防訓練..... 7

○明海大学歯学部

- ・歯学部 豊田亜希子助教（歯科矯正学分野）「東京矯正歯科学会9th IOC 優秀発表賞」受賞..... 7
- ・第49回日本歯科麻酔学会総会・学術集会で最優秀発表賞を受賞..... 7
- ・第26回日本口腔顎面痛学会総会学術大会で優秀論文賞を受賞..... 8
- ・ホワイエトコートセレモニー開催 医療人としての自覚と責任を..... 8

○東京歯科大学

- ・新型コロナワクチン接種の取組みについて（千代田区との連携協力）..... 9
- ・令和3年度解剖諸聖位供養法会開催..... 9

○昭和大学歯学部

- ・令和4年度 入学試験要項 決まる
新たに卒業生推薦入試・総合型選抜入試を導入..... 10
- ・歯科病院×株式会社ジーンテクノサイエンス
歯髓幹細胞製造の原料となる乳歯の提供体制を構築..... 10
- ・須田立雄名誉教授が令和3年度文化功労者顕彰を受賞..... 11
- ・歯学部6年 高橋夏大さんが原著論文を発表
重力と硬組織形成の関係を解明..... 11

○日本大学歯学部

- ・父母懇談会開催..... 12

○日本大学松戸歯学部

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックにおける医療協力について..... 12
- ・本学部生が「東京2020パラリンピック聖火の採火式・集火式」に参加..... 13

○日本歯科大学生命歯学部

- ・八重垣教授逝く..... 13

○日本歯科大学新潟生命歯学部

- ・医科病院を閉院・新潟病院に統合..... 14

○神奈川歯科大学

- ・羽田空港第1ターミナル歯科開院..... 14
- ・米海軍横須賀病院による表敬..... 15
- ・新ビジネスプロジェクト始動！..... 15

目次

○鶴見大学歯学部

- ・歯塚供養..... 15
- ・歯学部附属病院 夜間火災想定消防訓練 15
- ・解剖献体合同葬儀を厳修..... 16
- ・学生・教職員等を対象とした新型コロナウイルスワクチン職域接種（大学拠点接種）実施..... 16

○松本歯科大学

- ・学生たちの研究成果が『Scientific Reports』にオンライン掲載..... 16
- ・高分解能で静かな検査を実現 病院放射線室に最新MRIを導入 16
- ・矢ヶ崎 雅 理事長「旭日中綬章」を受章 17
- ・長野県議会と包括連携協定を締結
歯科口腔保健を通じ県民の健康増進に寄与..... 17

○朝日大学歯学部

- ・新型コロナワクチン集団接種..... 17
- ・村上治朗先生の「顕彰記念碑」建立 18
- ・秋の叙勲 2名が受章 18
- ・メキシコ州立自治大学とのオンライン交流..... 18

○愛知学院大学歯学部

- ・「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催しました 19
- ・「令和3年度第59回解剖慰靈祭及び返骨式」が執り行われました 19
- ・「末盛キャンパス建設整備工事の地鎮式」が行われました 20
- ・「歯学部附属病院にて2021年度消火・避難訓練」が行われました 20

○大阪歯科大学

- ・歯学部3年・井藤竜さんがアリガタバチの新種発見。英文誌に論文 21
- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定について 21
- ・歯学部3年生がSCRP日本大会で準優勝しました 22

○福岡歯科大学

- ・学校法人福岡学園 開学記念式典を挙行 22
- ・福岡歯科大学学生研究支援プログラムリサーチ・スチューデントが決定 23
- ・福岡歯科大学 個別面談会を開催 23
- ・福岡歯科大学医科歯科総合病院 職域接種の実施/福岡市のワクチン接種支援へ 23

（事業概要）

- 総会 25
- 理事会 26
- 部会・委員会 33
- 事務局長会議 33
- 研修会 34
- 第12回歯科プレスセミナー 35

（日本私立歯科大学協会関係の諸会議）

- 第42回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 36
- 第47回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会 36
- 令和3年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会 37

（叙勲）

- 38

（付報）

- 38

（人事異動消息）

- 38

（協会役員・部会・委員会名簿）

- 43

（賛助会員企業紹介）

- 47

（一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿）

- 48

（編集後記）

- 48

卷頭言

歯科医師過剰キャンペーンに 振り回される歯科医療



岩手医科大学理事長
小川 彰

「医制」（明治7年8月18日文部省発布）は日本で初めての医療制度、衛生行政に関する法律である。医業の許可制や医術開業試験の実施が決められ、医術開業試験は1875年（明治8年）より行われた。小幡英之助は、翌年実施された第1回の試験に「歯科」を専門に受験、合格し、「医籍第四号」に登録され「歯科医術開業免許候事」とされ近代歯科医第1号となった。明治16年（1883年）、新たに歯科医籍が作られ、医師と歯科医師は、法的に別個の存在となった。我が国の正式な歯科医学教育は、1906年（明治39年）に制定された公立私立歯科医学校指定規則に基づき、1907年（明治40年）2校の歯科医学専門学校（共立歯科医学校・現日本歯科大学、東京歯科医学専門学校・現東京歯科大学）が設立された。その後、医師、歯科医師養成は様々な変遷・曲折を経て、現代の形になったのである。

岩手医科大学は、1897年（明治30年）教

場を私立岩手病院に置き、私立岩手医学講習所・産婆看護婦養成所を開設したのが源流である。戦後の1965年（昭和40年）に歯学部を新設し、医・歯の2学部を擁する大学になった。その後、薬学部、看護学部を新設し現在では、医系4学部を擁する大学になっている。昭和40年当時、本学理事長・学長であった篠田糺先生は、「医学部に加え歯学部を持つことによって頭のてっぺんから足のつま先まで全身をすべて診ることが出来る大学になった。」と喜んだと言われている。

現在の日本では、国から強力な「歯科医師過剰キャンペーン」が張られ、昭和50年代後半以降入学定員が減少しており、18歳人口の減少と相まって、日本の歯学部の入学状況は悪化の一途をたどっている。現在なお入学定員削減圧力が続いている。

一方、単純に歯科医師の数を国際比較すると米国が圧倒的に多くOECD中1位（1.64/1000人）で日本は12位（0.78/1000人）

で人口当たり2倍以上の開きがある。米国には現在66校の歯学部を持つ大学があるので対し、日本の歯科大学数は29しかない。人口当たり米国の1/2以下の歯科医しかいないのに、日本では歯科医師過剰と言われ、米国では歯科医師不足と言われている。米国でも過去1985年（昭和60年）から約10年にわたり、歯科医師過剰キャンペーンが張られ、歯科医師養成数が大きく減少する時期があった。卒業生の減少は著しく約10年で約30%近い減少であった。その後、歯科医師不足の声が高まり、1992年から一貫して養成増に舵を切った。2010年（平成22年）以降現在まで実に8大学が新設され歯科医師養成数は年々増加している。給与で見ても米国歯科医師のレベルは高く、米国医師の多くの診療科の年収の中位に属し、多くの医科診療科の医師よりはるかに高額の年収を得ている。

日本と米国、なぜこの様に違うのだろうか。大きくは習慣や文化、法律や保険制度等が大きく異なっていることがあげられる。ホワイトニングや歯列矯正など国民の歯の審美に対する意識の違いも極めて大きいと思われる。一方、近年歯周病が生活習慣病・心臓病・脳卒中の発症やがんの発症に大きく関わっていることが判ってきた。このような全身病に対する予防的口腔ケアに対する意識の違いもあるだろう。事実、米国の歯科医院受診理由の約82%は「予防」のためであるのに対して、日本での歯科医院受診理由は、約88%が「治療」のためであるというデータがある。歯科医療の先進国とでは国民の意識の差は大きい。日本では国民の歯、口腔に対

する健康意識や日々の口腔内環境のメンテナンスの重要性に関する認識が希薄であると言わざるを得ない。また、国民の多くは、いまだ、歯科はあくまで齶歯の治療をする診療科という常識に縛られているのではないかと思う。

私立歯科大学協会や日本歯科医師会が率先して歯科医療に対する国民の誤った常識を正してゆくことこそ今必要なことと思う。歯科は歯を含む口腔全般の医療を通じて、生活習慣病やがんなどの全身病の予防や、口腔の審美を通じて国民の幸福に関与する総合口腔医学の意味を持って国民福祉に強く関与していくことを国民に知ってもらうことが肝要であると強く思っている。正しい知識を国民に持つてもらうことによって「歯科医師過剰キャンペーン」を払拭し、歯科の魅力を再認識いただくことこそ、国民の健康を守ることにつながるもの信じている。

〈筆者の略歴〉

- | | |
|----------|------------------------------|
| 1974年3月 | 岩手医科大学医学部医学科卒業 |
| 1974年4月 | 東北大学医学部付属脳疾患研究施設脳神経外科入局 |
| 1985年10月 | 国立仙台病院脳神経外科医長、臨床研究部脳神経研究室長 |
| 1988年5月 | 東北大学医学部助教授 |
| 1992年10月 | 岩手医科大学脳神経外科学講座教授 |
| 2003年4月 | 岩手医科大学 医学部長（～2008年3月） |
| 2008年1月 | 岩手医科大学 学長（2012年（再任）～2016年3月） |
| 2008年5月 | 全国医学部長病院長会議 会長（～2010年5月） |
| 2012年2月 | 学校法人岩手医科大学 理事長（現在に至る） |
| 2019年5月 | 日本私立医科大学協会 会長（現在に至る） |

大学のニュース

■ 北海道医療大学歯学部 ■

日本再生歯科医学会 第19回学術大会で優秀発表賞 (大学院生部門)を受賞

令和3年12月11日にWEB開催された日本再生歯科医学会第19回学術大会で本学大学院歯学研究科4学年のTubayesha Hassanさんが「優秀発表賞(大学院生部門)」を受賞しました。

受賞発表: The effects of dentin phosphophoryn-derived RGD peptides on the proliferation and differentiation of human dental pulp stem cells in-vitro.

Hassanさんの発表は、象牙質リンタンパク質であるphosphophorynの生理活性部位を用いた「象牙質再生誘導」アプローチに関するもので、phosphophoryn部分ペプチドがヒト歯髄幹細胞から象牙芽細胞への分化を誘導することを明らかにしました。

今回の研究結果を基に、今後、本ペプチドの修復象牙質誘導能を効果的に発揮し、象牙質再生により歯髄組織を保護して、一生自分の歯で食事を楽しむことが可能な機能性材料の開発を目指します。

[北海道医療大学ホームページ（令和3年12月掲載）](#)

第34回口腔診断・ 第31回口腔内科学会合同学術大会で 本学教員が大会長賞を受賞

令和3年9月9日(木)から30日(木)までオンラインにて開催されました第34回口腔診断・第31回口腔内科学会合同学術大会において、本学歯学部顎顔面口腔外科学分野の原田文也助教が大会長賞を受賞しました。

演題名: 歯根膜様細胞への誘導における上皮-間葉細胞集団のメチル化解析

本研究は、歯の神経組織である歯髄から歯周病で失われる歯周組織の歯根膜を人工的に作製し、歯髄と歯根膜の遺伝子発現の違いをDNAメチル化レベルで解析したものです。歯髄には歯髄幹細胞があることから、再生医療への応用が注目されています。本研究データは、将来的に歯髄を歯根膜再生へ応用できる可能性を示したものであり、現在は抜去歯を用いた研究データの解析を進めていることから、歯科再生医療への応用が期待されます。

[北海道医療大学ホームページ（令和4年1月掲載）](#)

本学が日本赤十字社より 銀色有功章を受章しました

令和4年1月6日(木)、本学が日本赤十字社より銀色有功章を受章しました。この章は永年にわたり継続して献血運動に功労があった企業・団体に対して贈られるもので、北海道赤十字血液センターの推薦を受けたものです。

本学では毎年数回、大学構内に献血車をお招きして献血を実施しており、学生や教職員が多数協力しております。

表彰は当別町役場にて行われ、当別町長より表彰楯を賜りました。

[北海道医療大学ホームページ（令和4年1月掲載）](#)

■ 岩手医科大学歯学部 ■

本学受験生サイトで開催中の WEBオープンキャンパスが リニューアルされました

8月6日(金)、WEB上で本学での学びや学生生活をイメージできる「WEBオープンキャンパス」がリニューアルされました。WEBオープンキャンパスは、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来校型オープンキャンパスの代替措置として、昨年度から実施されています。今年度のWEBオープンキャンパスでは、昨年度の利用者から要望の多かった在学生のキャンパスライフ紹介や部活紹介等の新規コンテンツが追加されました。皆さんもぜひご覧ください。

■新規コンテンツ

CAMPUS LIFE



キャンパスライフ紹介(学生の1日紹介)



部活紹介



大学紹介コンセプトムービー

岩手医科大学報 vol.537 (令和3年9月発行)

動物慰靈祭が行われました

11月1日(月)、大堀記念講堂において、第54回動物慰靈祭が執り行われ、祖父江学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生約250名が参列しました。

式では、昨年度教育及び研究に供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長並びに医学部3年大貫雅人さんから慰靈のことばが捧げられました。続いて、弘瀬動物研究センター長から挨拶があり、慰靈祭が終了しました。

式終了後、参列者は慰靈柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御靈に感謝するとともに靈が安らかならんことを祈りました。



医学部3年大貫さん 慰靈のことば

岩手医科大学報 vol.539 (令和4年1月発行)

感染症対策センター整備工事の起工式が挙行されました

11月12日(金)、附属病院の敷地内にある感染症対策センター建設予定地において、「感染症対策センター整備工事起工式」を挙行しました。

当日は、小川理事長をはじめとした本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等約30名が出席し、工事の無事を祈願しました。

センターの詳細は大学ホームページをご確認ください。



起工式式場



式場の様子



小川理事長による鍬入れ

岩手医科大学報 vol.539 (令和4年1月発行)

附属病院と内丸メディカルセンターでクリスマスのサプライズイベントが行われました

12月24日(金)、附属病院と内丸メディカルセンターにおいて、クリスマスのサプライズイベント「サンタさんが附属病院・内丸メディカルセンターにやってきた！」が行われました。

このイベントは、日々不安を抱いている人々に安心感とワクワク感をプレゼントしたいと、昨年に続き（附属病院は初めて）開催されました。

附属病院では外科学講座の新田教授と武田助教、内丸メディカルセンターでは脳神経外科学講座の西川講師がサンタクロースに扮して登場し、看護部が一つひとつに手書きしたクリスマスマッセージシールの貼られた個別包装のマスクを外来に訪れた方々にプレゼントしました。

マスクを受け取った方々は、サンタクロースからのサプライズに驚きながらも笑顔で応じ、クリスマス気分を味わったようでした。



附属病院 1 階エントランス



歯科医療センター 1 階受付前

岩手医科大学報 vol.539 (令和4年1月発行)

■奥羽大学歯学部■

コロナワクチン大学拠点接種を実施

大学の施設を活用して行うコロナワクチンの大学拠点接種が本学でも始まった。本学の学生と職員、東北歯科専門学校の学生と職員、本学と関連する会社の職員および近隣住民を対象に9月2日(木)に開始された。大学拠点接種は、一時、モデルナ社製ワクチンの供給が滞ったこともあり開始が遅れていたが、8月中旬から全国的に始まり、9月18日(土)時点で355大学が実施した。自治体が進めるワクチン接種の加速化に協力する狙いがある。

本学の接種会場は中央棟3階の学生ホールとし、武田/モデルナ社のワクチンが用いられた。

接種する期間は、1回目は9月2日(木)～9月21日(火)、接種の曜日は月～金で、時間帯は午前中の9：30～11：30である。

1回目の接種（希望）者数は、総数は829名で、学内スタッフ（附属病院・歯学部・薬学部の教職員）の協力のもとにワクチン接種が行われ、大きな混乱なく終了した。

2回目は、9月30日(木)～10月15日(金)で、同じ曜日、同じ時間帯で、1回目と同様な体制で接種が行われる。



奥羽大学報 169号 (No.294) (令和3年10月発行)

奥羽大学歯学会の開催

第69回奥羽大学歯学会が6月19日(土)に開催された。今回は新型コロナウイルス感染症対策として、Zoomを用いたオンライン開催となった。オンラインでの学会開催は初めての試みであったが、学会運営スタッフの尽力と発表者・参加者全員の協力によって大きなトラブルもなく遂行できた。今回は基礎、臨床、さらには歯学教育と幅広い分野から5つの演題発表があり、活発な討論が展開された。

当日は歯学会の学会賞及び発表賞の表彰も行われ、学

会賞が船川竜生講師に、発表賞が眞島いづみ講師と北條健太郎講師に授与された。

奥羽大学報 169号 (No.294) (令和3年10月発行)

大学院研究経過発表会の開催

本年度の大学院研究経過発表会が、9月2日(木)にZoomを使用してオンラインで開催された。大学院生は、学位申請を行う前年度の夏に学位研究の内容を大学院教員に対して発表しなくてはならない。これは、学位論文の質的向上を目指して1993年から行われている取り組みである。

今回は8名の大学院生の経過発表があり、それに対して大学院教員からは建設的な助言が数多く寄せられ、非常に有意義な発表会となった。

奥羽大学報 169号 (No.294) (令和3年10月発行)

休日・夜間時の自衛消防訓練

9月1日(水)附属病院において、歯科医師、看護師、事務職員など30名が参加し休日・夜間時の自衛消防訓練が行われた。地震および火災発生時の通報連絡の手順、4人および6人体制による担架搬送訓練を実施した。2021年2月13日(土)の地震時に勤務していた看護師は、患者搬送には避難する際の履物をスリッパから靴に履き替えること、布団を防寒用具及び頭巾として被ることなどが重要であることなどを説明した。



奥羽大学報 169号 (No.294) (令和3年10月発行)

■明海大学歯学部 ■

**歯学部 豊田亜希子助教
(歯科矯正学分野)
「東京矯正歯科学会
9th IOC 優秀発表賞」受賞**

7月14日 有楽町朝日ホールで開催された「第80回

東京矯正歯科学会記念学術大会」で、歯学部の豊田亜希子助教(歯科矯正学分野)が、「東京矯正歯科学会9th IOC 優秀発表賞」を受賞した。この賞の目的は、9th International Orthodontic Congress (IOC)に対する東京矯正歯科学会会員の関心を高め、かつ会員による学術発表の内容のさらなる向上を図ることにある。豊田助教の発表は、9th IOCに発表された多数の演題のなかから、厳正な審査を経て特に優れた研究内容と評価され、受賞に至った。

豊田助教からは今回の受賞について「このたびの受賞を大変光栄に思います。本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた須田直人教授、品川令客員助教をはじめとする先生方に感謝申し上げます。今後も歯科矯正学や唇顎口蓋裂治療の発展に貢献できるよう、教育研究活動に励んで参りたいと思います」と喜びの声が聞かれた。

【受賞対象】

「ヒト臍帯由来間葉系幹細胞は顎裂部骨再生における有用なバイオリソースである」



賞状を手にする豊田助教と新井一仁 東京矯正歯科学会会长
MEIKAI NEWS LETTER 第244号 (令和3年10月発行)

第49回日本歯科麻酔学会総会・ 学術集会で最優秀発表賞を受賞

10月9日、10日に行われた第49回日本歯科麻酔学会総会・学術集会で、安藤慎之介先生(歯学研究科3年・歯科麻酔学分野)と河野亮子先生(歯学研究科3年・歯科麻酔学分野)が最優秀発表賞(デンツプライシロナ賞)を受賞した。この賞は優れた研究発表を行った研究者および研究発表に贈られる賞で、安藤先生と河野先生は研究の独創性や学術的意義が評価され、受賞に至った。安藤先生は、昨年に続き2年連続で最優秀発表賞を受賞し、これは学会史上初の快挙となる。

安藤先生は「ご指導いただいている先生方、研究にご協力いただいている共同研究者の方々に2年連続の受賞という最高の形で恩返しができ、大変嬉しく思います」と喜びを語った。また、河野先生からは「このたびは栄

えある賞をいただき、大変感動しております。この賞は私個人の力でなく、ご指導いただきました先生方のお陰であると実感しております」と喜びの声が聞かれた。



安藤先生(左)と河野先生

〈受賞対象〉

『超高感度スマート圧電振動センサ(AYA-P)で得られる上気道閉塞呼吸パターンのAI解析』
○安藤楨之介、高木沙央理、河野亮子、原田達也、
高橋敏克、大野由夏、前田祐佳、讃岐純平、弘中哲夫、
石黒 隆、小長谷 光
(明海大学歯学部 病態診断治療学講座 歯科麻酔学分野)
『Offset analgesiaとpain catastrophizing scaleは口腔外科術後の罹患期間を予測する』
○河野亮子、大野由夏、安藤楨之介、高木沙央理、
長谷川彰彦、長坂 浩、小長谷 光
(明海大学歯学部 病態診断治療学講座 歯科麻酔学分野)

MEIKAI NEWS LETTER 第245号(令和4年1月発行)

第26回日本口腔顔面痛学会総会 学術大会で優秀論文賞を受賞

11月20日、21日に行われた「第26回日本口腔顔面痛学会総会学術大会」で、歯学部の大野由夏准教授(歯科麻酔学分野)が令和3年度日本口腔顔面痛学会優秀論文賞を受賞した。この賞の目的は、日本口腔顔面痛学会雑誌に掲載された論文のうち優秀論文を表彰することにある。大野准教授の論文は冷温刺激と圧刺激を用いた新



大野由夏准教授

たな内因性疼痛調節機構測定装置の開発という独創性と、その将来的な有用性が評価され、受賞に至った。

大野准教授からは今回の受賞について「ご指導いただいた小長谷教授、医局員の先生方のおかげで大変名誉ある賞をいただくことができ、感謝しております。大変光栄です」と喜びの声が聞かれた。

〈受賞対象〉

『冷温刺激および圧刺激をもちいた内因性疼痛調節機構測定装置の開発』

○大野由夏、河野亮子、安藤楨之介、高木沙央理、
小長谷 光(明海大学歯学部 病態診断治療学講座 歯科
麻酔学分野)

日本口腔顔面痛学会雑誌 2021;13巻1号、Page 1 17-127.

MEIKAI NEWS LETTER 第245号(令和4年1月発行)

ホワイトコートセレモニー開催 医療人としての自覚と責任を

保健医療学部口腔保健学科3期生である1年生を対象とした「ホワイトコートセレモニー(白衣授与式)」を10月14日に浦安キャンパスで開催した。ホワイトコートセレモニーとは学生に白衣を授与することによって医療に携わる自覚を促す式典で、保健医療学部では開設以来毎年行っている。3回目の実施となった今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教員と在学生のみで執り行い、会場に足を運ぶことができない保護者の方々にはオンラインによるライブ配信を行った。

セレモニーでは、初めに学長告辞として安井利一学長から「学歌の一節に『尊厳と愛を胸深く抱く人』という歌詞があるが、医療人こそまさにそんな人であってほしい。この言葉を胸に刻み、今日の日をスタートとしてがんばってください。人生の新たな船出を教職員一同心から応援します」との言葉が贈られた。

続いて、学部長式辞として藤内祝学部長からは「白衣に袖を通す瞬間から医療の一端を担う人になる誓いを込めていただきたい。その誓いを4年間忘れずにがんばってください」と激励の言葉があった。

その後、代表の学生2人が登壇し、金久弥生学科主任から受け取った白衣に袖を通した。白衣は保健医療学部口腔保健学科オリジナルデザインで、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレ庇オス(Aesculapius)が持つ杖をモチーフとした保健医療学部のエンブレムをあしらい、右袖には学生氏名の刺繡が施されている。

学生を代表して宣誓を行った山下莉央さんからは「知識と技術を磨き、仲間とともに成長し、医療人としての

自覚と責任を持った歯科衛生士をめざします」との力強い言葉があり、医療人としての第一歩を踏み出したことへの期待に胸を膨らませている様子がうかがえた。



白衣に袖を通す保健医療学部生



一戸副学長によるワクチン接種

MEIKAI NEWS LETTER 第245号（令和4年1月発行）

■東京歯科大学■

新型コロナワクチン接種の取組みについて(千代田区との連携協力)

2021年6月25日(金)より、水道橋校舎南棟会議室にて、千代田区との連携協力により本学希望者700名および千代田区内の学校、保育所等の職員（教員・保育士・放課後児童支援者等）1,700名への新型コロナワイルスワクチン接種が実施された。

歯科医師によるワクチン接種が可能となり、内閣官房からの要請を受けた本学は、千代田区との連携協力により、ワクチン接種プロジェクトとして、7月上旬から8月上旬にかけ実施することを5月下旬に決定した。

本プロジェクトは、大学をあげての取り組みと位置付けられ、本学水道橋病院より、片倉朗病院長のリーダーシップのもと、40名の教職員が、ワクチンの接種・移送・分注・予診票チェック・受付・誘導・警備を行った。また、市川総合病院より西田次郎病院長と松井淳一副学長のリーダーシップのもと26名の医師・看護師により、問診・経過観察・救急対応をおこなった。

千代田区関係者接種初日の7月2日(金)午後0時15分より、水道橋校舎本館5階応接室において、樋口高顕千代田区長より、井出吉信理事長・学長に今般のワクチン接種の協力という、地域社会への貢献に対し、感謝状が授与された。その後、井出理事長・学長と片倉病院長の案内により、樋口区長、随行の堀米孝尚教育長、歌川さとみ保健福祉部長がワクチン接種会場を視察され、区長から当日問診を行っていた西田市川総合病院長はじめ、ワクチン接種に携わる本学教職員へ感謝の意が表された。



樋口区長とお話をされる西田病院長と片倉病院長



樋口区長より感謝状を授与される井出理事長・学長

東京歯科大学広報 第302号（令和3年11月発行）

令和3年度解剖諸靈位供養法会開催

2021年11月10日(水)午後2時30分より、水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、令和3年度解剖諸靈位供養法会が執り行われた。

今年度も新型コロナワイルス感染症の影響で規模を縮小した上での開催となり、井出吉信学長、大学幹部、東京歯科大学白菊会会長および歯学部第2学年学生が参列した。

本学開設以来、歯科医学教育と研究のため、尊いご遺志を持って献血いただいた4千有余柱の諸靈位に対し、深く感謝の意を捧げご冥福をお祈りした。また、真珠院導師により誦経が行われ、井出学長が祭文を奉読したの

ち参列者による献花が行われた。

つづいて、学生を代表して杉本好隆さん（第2学年）より挨拶があり、次にご遺族代表よりご挨拶（代読：解剖学講座阿部伸一主任教授）をいただき、本年度の解剖諸靈位供養法会は滞りなく終了した。



献花をする井出学長



学生代表による献花



杉本さんによる挨拶

東京歯科大学広報 第303号（令和4年3月発行）

■ 昭和大学歯学部 ■

**令和4年度 入学試験要項 決まる
新たに卒業生推薦入試・
総合型選抜入試を導入**

令和4年度昭和大学入学試験要項を公開し、総合型選

抜入学試験（以下、総合型選抜入試）の出願がスタートした。昨年度からの変更点は、全学部で本学卒業生の子女を対象とした卒業生推薦入学試験（以下、卒業生推薦入試）を開始するほか、歯学部・薬学部・保健医療学部で総合型選抜入試を開始する。また、全学部において、全国を6地域にわけ地域別選抜（現役生に限る）を実施した大学入学共通テスト利用入試（B方式：地域別選抜）による募集を停止する。

出願書類審査は前年度と同様、新型コロナウイルス蔓延による受験生の活動制限を配慮し、総合型選抜入試を除く入学試験において点数化は行わない。

【卒業生推薦入試】

建学の精神である「至誠一貫」を充分に理解し、将来に渡って継承・発展させていく人材の育成を目的とし、本学の良き理解者である卒業生の子女を対象とする。現役の受験生で、祖父母、もしくは両親のいずれかが本学医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の卒業生であることが出願条件となる。

【総合型選抜入試】

新たな視点で、将来の医療を担う高い志を持った人材を発掘するために導入する。

一般選抜入学試験では充分に評価できない「コミュニケーション能力」、「分析力」、「調整力」、「学習意欲」の評価に重きを置き、提出書類の審査および教養試験・面接等により受験生の能力や学習に対する意欲などを総合的に評価する。

※詳細は昭和大学受験生サイトへ

<https://adm.showa-u.ac.jp/>

令和4年度入試のポイント・変更点

1. 新たに卒業生推薦入試と総合型選抜入試を実施
〈対象学部〉
【卒業生推薦入試】全学部
【総合型選抜入試】歯学部・薬学部・保健医療学部
2. 大学入学共通テスト利用入試（B方式：地域別選抜）の廃止
3. 出願書類審査の点数化なし
(総合型選抜入試は除く)

昭和大学新聞 第597号（令和3年9月発行）

歯科病院×

株式会社ジーンテクノサイエンス
歯髄幹細胞製造の原料となる乳歯の
提供体制を構築

昭和大学歯科病院はこのたび、株式会社ジーンテクノサイエンス（東京都中央区）（※）との連携により、生え変わりの乳歯から得られる「歯髄幹細胞」を活用した

治療薬（再生医療等製品）の原料となる乳歯の供給システム構築について合意した。

昭和大学と株式会社ジーンテクノサイエンスは2019年9月、歯髄幹細胞を用いた再生医療の事業化に向けた产学連携基本契約を締結した。医系総合大学である本学が保有する広い専門分野における高い研究力と、同社が再生医療事業の基盤としている歯髄幹細胞プラットフォームによって、骨関節疾患領域に留まらない包括的な研究活動および独自の新規再生医療研究を協働で展開している。

ジーンテクノサイエンスが再生医療等製品として実用化を目指している歯髄幹細胞は、歯の内部の「歯髄」と呼ばれる組織から採取される幹細胞を一定の培養条件下で増殖させ、医薬品（再生医療等製品）の原料とするもの。若い提供者（ドナー）の乳歯から採れる細胞は特に分化・増殖する力が強く、高い組織再生能力が期待されている。また、乳歯は生え変わるため、体に大変な負担を伴う脊髄から採取する細胞に比べ、ドナーの負担も少なく、採取タイミングが多いといった特徴もある。

2020年3月、昭和大学歯科病院および株式会社ジーンテクノサイエンスは本体制構築における連携の下、日本で初めて、経済産業省による「ヒト（同種）細胞原料供給に係るガイダンス1」（現在は第2版）に則り、海外に依存しない国内乳歯提供体制のさらなる安定化を目指し、根治療法が確立されていない希少疾患および難病の治療薬の実用化に向け大きく舵を切った。

※2021年7月1日よりキッズウェル・バイオ株式会社に社名変更

昭和大学新聞 第597号（令和3年9月発行）

須田立雄名誉教授が 令和3年度文化功労者顕彰を受賞

令和3年度の文化功労者顕彰が10月26日に発表され、須田立雄名誉教授が選出された。



須田立雄名誉教授

須田名誉教授は、基礎歯学・生化学の分野において、我が国の骨代謝研究を黎明期から支え、ビタミンDの代謝調節やその臨床応用等に取り組み、強力な生理作用

を持つ活性型ビタミンDを構造決定し、骨粗鬆症の基本的な治療薬となる合成誘導体を考案した。

また、破骨細胞誘導因子ODF/RANKLを発見するなどの顕著な業績を上げ、斯学の発展に多大な貢献をした功績が評価され、このたびの受賞となった。

【須田立雄名誉教授のコメント】

この度は、文科省から文化功労者選出の通知を受けて大驚いております。

私は1977年から2000年までの23年間、昭和大学でお世話になりました。今回の文化功労者選出の理由となった私の研究業績、活性型ビタミンDの合成誘導体（アルファカルシドール、商品名アルファロール）の創薬（1981）、毛利衛さんと行った宇宙実験（1992）、破骨細胞誘導因子（ODF/RANKL）の発見（1998）はすべて私が昭和大学在学中に行った実験成果です。

昭和大学在学中お世話になった共同研究者の皆様方、小口勝司理事長をはじめとする昭和大学の皆様に厚く御礼を申し上げます。今回の私の文化功労者選出がこれから医学・歯学・薬学・保健医療学の道を目指す若人の励みになればこれに勝る幸せはございません。

昭和大学新聞 第600号（令和3年12月発行）

歯学部6年 高橋夏さんが 原著論文を発表 重力と硬組織形成の関係を解明

高橋夏さん（歯学部6年）の英語原著論文「Investigation of osteogenesis changes in medaka larvae reared in normal gravity, simulated-microgravity and hypergravity environments（通常の重力、模擬微小重力、過重力環境下で飼育したメダカ稚魚における骨形成変化の解析）」が日本宇宙生物科学会発行の国際誌『Biological Sciences in Space』に掲載された。

高橋さんは歯学研究科のマルチ・ドクター・プログラムを履修し、歯学部歯科薬理学講座・薬理科学研究センターの茶谷昌宏講師〔専門：宇宙医学〕の指導のもとで約2年半に渡って研究を進め、第一著者として本論文を発表した。

本論文は、骨や歯などの硬組織形成において重力が担う役割の解明を目的として、遺伝子組換えメダカを様々な大きさの重力下で飼育し、硬組織形成やそれに関与する細胞に生じた変化を解析したものである。この研究ではJAXAが開発した生体用遠心装置や微小重力装置を使用した。研究成果は、硬組織形成メカニズムの理解を深めるとともに、骨への力学的負荷の減少に伴う骨密度の低下（骨粗鬆症など）の原因究明に役立つことが期待

される。

【高橋夏大さんのコメント】

このたび、自身の研究成果を英語の論文として発表できることは、人生の中で最も嬉しい経験となりました。歯学部2年次の実習「研究入門」で基礎研究の面白さを知り、4年次からMulti Doctorプログラムを履修して、本格的な研究が始まりました。歯学部の授業や試験との両立はとても大変でしたが、メダカの稚魚を見ると手を抜くことはできず、休日も含めてほぼ毎日研究室に通いました。まだ2年半という短い期間しか研究していませんが、歯科を含む生命科学に対する視野が大きく広がり、将来の進路を考える良い機会にもなりました。これも歯科薬理学講座の高見正道教授や、実験と論文執筆を直接ご指導くださった茶谷昌宏講師のおかげです。そして貴重なご助言や激励をくださった歯科薬理学講座および薬理科学研究センターの皆様に心より感謝申し上げます。



左から高橋夏大さん、茶谷昌宏講師

昭和大学新聞 第600号（令和3年12月発行）



学年別懇談会の様子(第4学年)

よる開催となった。本田和也歯学部長の挨拶に続き、事前にGoogle Formにて御父母よりいただいた質問のなかで全学年に共通する学務に関することについては、今村佳樹学務担当が回答した。その後、学年別にクラス担任による質疑応答も含めた懇談会が開催された。

桜歯ニュース 第213号（令和4年1月発行）

■日本大学松戸歯学部■

東京2020オリンピック・パラリンピックにおける医療協力について

准教授 鈴木浩司

コロナ禍で開催された東京2020オリンピック・パラリンピックは熱戦に幕が下ろされた。国内では新型コロナウイルスの感染が急拡大し、大会関係者の感染が相次ぐなど、コロナの影響が否めない大会であった。従って、ほとんどの会場が無観客での開催となってしまった。しかしその一方で、世界中から集まったアスリート、中でも地元開催となった日本選手たちの目覚ましい活躍に私たちは一喜一憂した。

今大会において、日本大学松戸歯学部からは選手村ボリクリニック内に開設された歯科診療室に歯科医師6名、歯科衛生士8名が派遣され、また競技会場救護として、日本武道館での空手競技に歯科医師4名、医師1名、看護師1名を、東京スタジアムでのラグビー競技には歯科医師1名が参加した。

特にボリクリニックでは初診や予防業務に加え、専門診療となる口腔外科処置、保存修復処置、歯内療法処置、障害者歯科対応、マウスガード製作等が行われ、組織委員会からは専門診療に対応する歯科医師派遣要請を受けたため、各科のスペシャリストと歯科衛生士が投入されたものである。クリニック内では多くの言語が飛び交い、英語対応は何とかなるものの、スペイン語、フランス語、ロシア語など母国語以外を話さない選手や関係

■日本大学歯学部■

父母懇談会開催

昨年度は、新型コロナウイルスのまん延により中止となつた父母懇談会であったが、今年度は令和3年10月9日(土)14時から御父母246名(Zoom入室者数)が参加をして、初めてのZoomを利用したオンライン形式に



学年別懇談会の様子(第5学年)

者が多く、「ポケトーク（AI音声翻訳機）」がなかったらどうなっていたことかと考えると、今でもぞつとする。それでも日本の医療に接したい多くの選手達の要望に応えるため、身振り手振りでコミュニケーションを取り、専門領域以外の処置にも積極的に対応した。診察後に片言の日本語で「アリガト」「サヨナラ」と言って満足そうに帰る選手の後ろ姿にはホッとした。

コロナ禍にあり、当初予定されていた運用と異なる点が多く、戸惑うこと多かったが、それを上回る貴重な経験は大きな legacy となる。



松戸歯ニュース 第178号（令和3年10月発行）

本学部生が 「東京2020パラリンピック聖火の 採火式・集火式」に参加

准教授 橋口 泰一

COVID-19による1年の延期となった東京2020パラリンピックが、8月24日から9月5日まで開催され、多くの感動や気づきを与えてくれました。

パラリンピック開催に伴い、8月18日に千葉県松戸市にて開催されたパラリンピック聖火の採火式、千葉県の集火式に本学部学生が参加し、大役を務めましたので、ご報告いたします。

「聖火ランナー」という言葉が多くのメディアで聞かれますが、オリンピックでは、古代オリンピック発祥の地ギリシャ・オリンピア市にあるヘラ神殿跡で採火され、聖火として日本へ引き継がれます。パラリンピックは、オリンピックとは異なり、パラリンピック発祥の地であるイギリスのストーク・マンデビルと開催国内各地（47都道府県）で採火される炎から集火されたものを1つにして聖火台に灯されます。

千葉県では、東京2020パラリンピック聖火の元となる「市町村の火」が県内全ての市町村において採火されました。松戸市では、松戸市少年少女発明クラブの児童の皆様が「古式ひもぎり式」で起こした種火をもとに、本学部の学生3名（安附尚哉さん、伊藤暢祐さん、三浦

智成さん）が松戸市を代表し、“松戸市の火”として採火を致しました。当日は、無観客ながら、松戸市長・副市長とともに、採火式に出席致しました。

松戸市の採火式後、千葉県のパラリンピック集火式（市原スパレクパーク）にて、“松戸市の火”とともに、伊藤暢祐さんが松戸市を代表して出席しました。そこで、各市町村で採火された火が、千葉県の火として1つに集火されました。

当日は、報道各社が集まる中、日本大学松戸歯学部の名称、参加学生の名前がアナウンスされ、堂々と立派に大役を務めていたことが印象に残ります。

残念ながら無観客での開催となった東京2020オリンピック・パラリンピックですが、様々な立場や角度から印象が残ったかと思います。一つのスポーツイベントで終わらず、多くのレガシー（成果と伝承）を残せるよう、これからが重要であろうと感じます。



松戸歯ニュース 第178号（令和3年10月発行）

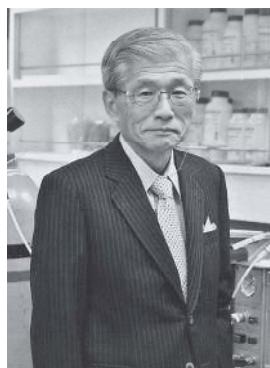
■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

八重垣 教授 逝く

歯学部初の先端再生研究

歯髄幹細胞で肝臓膵臓の再生を解明

本学生命歯学部衛生学講座の八重垣健教授は、令和3年11月13日、東京の順天堂大学病院において死去された。享年68歳。



大学院研究科長を併任

八重垣教授は、昭和54年に本学を卒業した。第68回卒。故郷の久留米大学の大学院医学研究科を修了後、同大口腔外科学教室助手を経て、59年にカナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)歯学部の口腔生物学教室にポスト・ドクトラル・フェローとして留学した。

カナダより帰国後、昭和62年に本学新潟歯学部口腔衛生学講座講師に就き、翌年同助教授となり、平成4年まで在職した。平成7年ふたたびUBC歯学部に赴いて同校指導医、9年には臨床教授に就いた。

八重垣教授は誰も目をむけない口臭の研究に取り組み、11年にブリティッシュ・コロンビア州の歯科医師免許を取得してから、口臭専門医として患者診療に当たる。じきに北米からも口臭患者が殺到し、彼はカナダ・北米でもっとも著名な歯科医師と称された。

UBC在職10年ののち平成16年に本学生命歯学部衛生学講座教授に着任した。そこからライフワークの口臭物質の歯周病原性や発癌性、ヒト歯髄幹細胞から各種臓器の再生等の研究に没頭した。

日本歯科大学新聞 第673号（令和4年1月発行）

■日本歯科大学新潟生命歯学部■

医科病院を閉院・新潟病院に統合

新潟生命歯学部の医科病院は、昨年10月1日に閉院し、新潟病院（歯科）に統合した。同医科病院は1981年に新潟病院（歯科）に隣接して開設し、内科・外科・耳鼻咽喉科の3科を有した。

このたび歯科と医科の効率的な連携を強化するため、新潟病院（山口晃病院長）内に「長寿医歯連携医療センター」（大越章吾センター長）を新設し、歯科と医科の両目線に立って連携して患者さんを診療できる体制を構築した。病棟は、両病院合せた92床のベッド数となる。

日本歯科大学新聞 第673号（令和4年1月発行）

■神奈川歯科大学■

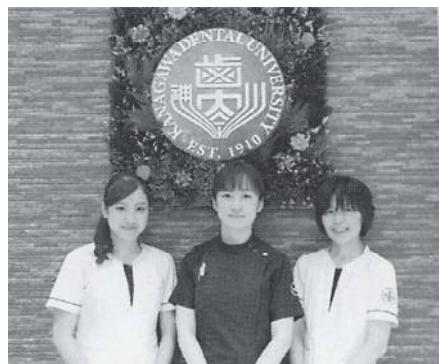
羽田空港第1ターミナル歯科開院

羽田空港第1ターミナル歯科の院長になりました植田真美子と申します。羽田の近況をお伝えさせていただきます。当クリニックは2021年4月1日(木)に羽田空港第1旅客ターミナル1階(到着フロア)に開院しました。歯科、小児歯科、歯科口腔外科を標榜しております。

主に羽田空港に勤務されている方々、空港近隣にお勤

めの方々が来院されます。空港という立地上、フライト前後の急患の方々もみえます。

オリンピックの開幕により、羽田空港では厳戒態勢がとられており、少し活気を取り戻しつつあるように思われます。また、子供たちが夏休みに入りましたので帰省されるご家族の姿も多々見られます。フライト数は未だ減便のままでし、コロナ禍以前の状態に戻るまではまだ時間がかかるでしょうけれど、ワクチン接種の進捗



に期待したいところです。

当クリニックのお隣には航空神社があります。フライト前の祈願、そして「落ちない神社」として受験生からも人気がある神社です。羽田空港にお越しの際は是非クリニックにもお立ち寄りください。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第41号（令和3年9月発行）

米海軍横須賀病院長による表敬

2021年7月28日(水)、学校法人神奈川歯科大学 鹿島理事長以下3名は、米海軍横須賀病院長ライス大佐による表敬を受けました。

表敬に先立ち資料館の人体標本室を見学され、「Color Atlas of Anatomy」にも掲載されているその貴重で豊富な標本に医療人として感銘を受けられました。表敬の際は、米海軍横須賀基地司令官の記念メダルとAnatomy横地千仞Tシャツのギフトチェンジを行うとともに、今後のインター・オペラビリティ醸成のためにCE Nightと呼ばれる米海軍の医療勉強会への参加や「歩いて行ける海外研修」の策定、また本学の資料館や図書館共同利用についても和やかに話し合われました。本学と米海軍基地は隣接しているものの定的な連携ではなく、これを機に「横須賀」ならではの連携が期待されます。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第41号（令和3年9月発行）

新ビジネスプロジェクト始動！

永続的な法人の繁栄を目的に、学納金及び医療収入に加え「第三の収入」を確立すべく、理事会直轄の新ビジネスプロジェクトが発足致しました。

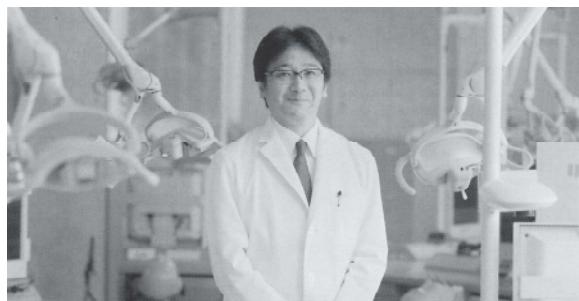
新進気鋭の6名の教授による自由闊達なビジネスモデルのプレゼンが行われ、即時実現可能なモデルとして、この度、榎木教授を中心とした「神奈川歯科大学大学院

附属唾液科学研究所」が先行して設立されます。

唾液研究は既に世間の認知が高く、コロナ禍の下、PCR検査体制も確立し、その後の抗体検査体制をも加速させていることから、事業の永続性も評価されております。

「唾液=神奈川歯科・榎木」というポジションを確立することは、高い専門性を有するアカデミズムを創造させ、その魅力を内外に大きく示すことで、収益と共に他大学との差別化と大学の価値向上へ寄与するものと確信しております。

今後、同プロジェクトより、本学の強みを最大限に活かした、第二・第三のビジネスモデルが産声を上げます。ぜひご期待ください。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第41号（令和3年9月発行）

鶴見大学歯学部

歯塚供養

6月4日(金)11時30分から鶴見大学記念館記念ホールにおいて、抜去歯に対する感謝の法要が厳修された。

この歯塚供養は、毎年「歯と口の健康週間」に因んで行われる行持で、中根正賢学長導師のもと法要が執り行われ、神奈川県歯科医師会や鶴見区歯科医師会の先生方をはじめ、本学教職員が参列焼香した。法要終了後、中根正賢学長より、横浜は我が国の近代歯科医学発祥の地であると同時に、曹洞宗を開かれた道元禅師も歯磨きの大切さを説いており、これを機会に歯と口の健康に思いを巡らせ、歯科医療に携わる者としての意識を一層高めてほしい、とのお言葉があった。

鶴見大学報 第428号（令和3年7月発行）

歯学部附属病院

夜間火災想定消防訓練

6月15日(火)16時から歯学部附属病院において、当直歯科医師、看護師などを中心に入院病棟における夜間の火災発生を想定した自主訓練が実施され、防火に対する意識を高めた。



鶴見大学報 第428号（令和3年7月発行）

解剖献体合同葬儀を厳修

7月21日(水)午後3時から、2号館解剖実習室において、令和3年度歯学部解剖献体合同葬儀が大本山總持寺副監院 廣澤道秀老師により厳修された。



鶴見大学報 第431号（令和3年10月発行）

学生・教職員等を対象とした新型コロナウイルスワクチン職域接種(大学拠点接種)実施

新型コロナウイルス感染症の終息に向け、授業や学生の活動が際限なく実施できるようになることを目的として、本学学生、教職員、関係機関等を対象とした職域接種(大学拠点接種)を実施。



第1回目は8月30日(月)～9月4日(土)に実施し、希望者は1,126人だった。第2回目は9月27日(月)～10月2日(土)に実施する。

鶴見大学報 第431号（令和3年10月発行）

■松本歯科大学■

学生たちの研究成果が 『Scientific Reports』に オンライン掲載

本学歯学部第6学年の植野裕司君、浮田英彦君、高坂怜子さんと、第5学年の三浦佑樹君、2020年度卒業生の大毛翔吾君、中田智是君らの研究成果が、「*Gemella haemolysans inhibits the growth of the periodontal pathogen Porphyromonas gingivalis*」という題目で Nature Publishing Group の学術誌『Scientific Reports』に6月3日(木)、オンライン掲載された。

第2・3学年の選択科目「歯科医学研究 A/B」で取り組んだ研究課題で、溶血性細菌が歯周病原細菌を抑制することを明らかにした。口腔微生物に関して高度な知識が求められる歯科医師を目指して、今後の活躍が期待される。



左から高坂さん、浮田君、植野君、三浦君、
別枠上から大毛君、中田君

Campus Today 第451号（令和3年8月発行）

高分解能で静かな検査を実現 病院放射線室に最新MRIを導入

本学病院放射線検査室に米国GE社の最新鋭MRI装置「Signa Explore 1.5T (ver. 25.3)」を新たに導入し、11月22日(月)より稼働を開始した。長野県内の医療機関では初の導入となる。

MRI装置は2008年に導入されたが、すでに13年が経過しているため、最新鋭機種が新導入された。

本MRI装置では不必要的ノイズを取り除くサイレンスキャンが搭載され、一部の撮像条件においては音ができるだけ小さくすることが可能となった。また全身領域での高速撮像を可能にし、撮像時間を大幅に短縮（従来の30～50%時間を短縮）すると共に高分解能撮像を行える。



最新鋭機種 Signa Explore 1.5T

Campus Today 第455号（令和3年12月発行）

矢ヶ崎 雅 理事長 「旭日中綬章」を受章

松本歯科大学理事長・矢ヶ崎 雅先生は2021年秋の叙勲において「旭日中綬章」を受章された。この叙勲は、永年にわたり松本歯科大学の発展および歯科医学教育に貢献し、顕著な功績を挙げた功によるものである。

矢ヶ崎 雅先生は、2016年に「藍綬褒章」を受章されているが、今回の「旭日中綬章」は、閣議決定「勲章の授与基準（2003年）」によれば、旭日章の中で3番目に位置し、公益団体では全国的に活動している団体の長や経済社会の発展への寄与が特に大きい企業の最高責任者等が対象となる。

矢ヶ崎先生は、「今回の受章は、大学を応援してくださった関係各方面の皆様のお力添えによるもので、この機会に永年にわたるご支援に対して、改めて御礼申し上げます。今後も教職員と共に、未来への展望を失わず、微力ながら歯科医学教育ならびに歯科医療の発展に専心



努力し、社会に貢献する所存です」とコメントを述べられている。

Campus Today 第455号（令和3年12月発行）

長野県議会と包括連携協定を締結 歯科口腔保健を通じ 県民の健康増進に寄与

本学は11月24日(水)、長野県議会と「包括連携協定」を締結し、記者発表が行われた。本学の矢ヶ崎 雅理事長と長野県議会の宮本衡司議長が長野県庁において協定書を交わし、相互連携によって県民の歯と口腔の健康を保ち、さらなる健康寿命の延伸をはかることで合意した。

宮本議長は、「協定を契機に松本歯科大学が有する歯や口腔に関する専門的な知見を生かし、県民が健康で明るく暮らせる社会づくり、健康長寿につながることを期待している」と述べた。



包括連携協定の締結式

Campus Today 第455号（令和3年12月発行）

朝日大学歯学部

新型コロナワクチン集団接種

岐阜県内の医療系学生を対象にした新型コロナウイルスワクチンの先行接種が6月28～30日に岐阜県産業会館（岐阜市六条南）で実施されました。

この先行接種は、医療機関での実習などを控えた医療系の大学、短大、専門学校が参加し行われたもので、本大学からは約600名の学生が接種を受けました。

岐阜県からの委託を受けて、本大学の医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、教員ら延べ60名が、ワクチン接種を担当しました。

筋肉内注射の実技研修

医療系の学生を対象とした集団接種や、7月2日から行われた朝日大学職域接種（約4,000名）のワクチン接

種を担当する本大学所属の歯科医師らは、接種に先立つ6月に穂積キャンパス内の医科歯科医療センターにおいて、塚原隆司健康管理センター長（医師）の直接指導のもと、看護学科所有のシミュレーター等を使用した研修を受講しました。



筋肉内注射の実技研修



穂積キャンパス体育館での職域接種

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第135号
(令和3年9月発行)

村上治郎先生の「顕彰記念碑」建立

創立50周年を迎えた本年、朝日大学病院の前身である医療法人寿康会村上外科病院の創立者・初代病院長で、1973年に村上外科病院を本法人に寄附をされた故村上治郎博士のご功績を振り返り、「地域医療への寄与」の精神を永遠に引き継ぐため、宮田淳理事長による建立趣意書を添えて、7月9日に村上治郎先生のご親族や関係者の皆様をお招きし、村上先生の胸像を同院（岐阜市橋本町）の東館1階エレベーターホールに設置しました。

コロナ下で除幕式に参加した約30名の関係者らは、



宮田淳理事長が挨拶



「顕彰記念碑」除幕式

「地域医療への寄与」を誓いました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第135号
(令和3年9月発行)

秋の叙勲 2名が受章

「瑞宝小綬章」

令和3年（2021年）秋の叙勲において、本大学の名誉教授である永野宏先生と兼松宣武先生が、共に「瑞宝小綬章」を受章されました。

永野先生は、歯学部基礎教育系物理学の教授として、兼松先生は歯学部口腔外科学分野の教授として、教育・研究に多年にわたり寄与されたご功績が認められての受章となりました。



永野先生(名誉教授)

兼松先生(名誉教授)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第137号
(令和4年1月発行)

メキシコ州立自治大学との オンライン交流

1993年6月に姉妹校協定を締結しているメキシコ州立自治大学（UAEM）、明海大学と本大学歯学部学生が、14時間の時差の壁を越えて昨年10月27日オンライン交流を行いました。

今回の交流は、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、コロナ禍における“代替オンライン交流”という形で実現。本大学からは、永山元彦歯学部国際交流委員長

をはじめ、学生・教職員12名が参加しました。

「さくらサイエンスプログラム」で交流が実現

はじめに、新たにメキシコ州立自治大学歯学部長に就任されたDean Leticia Robles Bermeo先生から開催挨拶と本大学創立50周年記念への祝辞が述べられました。

オンライン交流で双方の学生らは、英語やスペイン語で元気に自己紹介や大学を紹介。特別講義では、本大学からは歯学部歯科保存学分野の二階堂徹教授による「直接コンポジットレジン修復における先端材料と技術」の講演（英語）が行われ、学生・教職員らは熱心に受講しました。

「世界的なコロナ・パンデミックが終息したら必ず再会しましょう」との固い約束を交わし、笑顔でオンライン交流の幕を閉じました。



オンラインで国際交流

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第137号

(令和4年1月発行)

を講じたところ、参加した生徒さん達も快く協力していただき、大盛況のうちにプログラムは終了いたしました。



愛知学院大学ホームページ（令和3年9月掲載）

■愛知学院大学歯学部■

「ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」を開催しました

日本学術振興会の公募型事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に、本年度も歯学部歯周病学講座の福田光男特殊診療科教授等が採択され（3年連続採択）、さる7月22日（木・祝）に歯学部附属病院にて、参加を希望された中学生・高校生を対象に「課外授業」を行いました。

本年度は「口の中にひそむ微生物（細菌）を最新の歯科用レーザーで殺菌・除菌してみよう」をテーマに、福田特殊診療科教授等が科学研究費を使って日頃どのような研究活動を行っているのか説明し、参加した生徒さん達も大学教員による授業や大学病院内の見学、歯科用レーザーを使った実演など、日常の学校生活ではなかなか体験できないプログラム内容に興味津々でした。

また、当日は新型コロナウイルス感染防止の観点から、あらかじめ参加人数を少数に限定し、マスクやグローブ、フェイスシールドの着用を徹底するなどの対策

「令和3年度第59回解剖慰靈祭 及び返骨式」が執り行われました

令和3年10月1日（金）、楠元キャンパスにて、令和3年度第59回解剖慰靈祭がしめやかに執り行われました。

今年度は新型コロナウイルス感染症感染予防のため、ご遺族、ご来賓及び教職員のみが参列し、歯学の発展のためご遺体を本学における解剖に献体された故人の御靈に対し、ご冥福をお祈りしました。

続いて、解剖学講座 池田やよい主任教授からご遺族の元にご遺骨をお返ししました。





愛知学院大学歯学部ホームページ（令和3年10月掲載）

「末盛キャンパス建設整備工事の地鎮式」が行われました

令和3年10月26日(火)午前9時より名古屋市千種区月見坂町内建設用地（現歯学部附属病院駐車場）において、末盛キャンパス建設整備工事の地鎮式を無事執り行うことができました。

当日は早朝からさわやかな秋空のすがすがしいなか、中村理事長、引田学長、後藤歯学部長をはじめとする関係者にて地鎮式の仏事を行いました。令和5年秋竣工に向け歯学部新校舎の建設を進めて参ります。



愛知学院大学ホームページ（令和3年10月掲載）

「歯学部附属病院にて 2021年度 消火・避難訓練」が 行われました

11月25日(火)16時より歯学部附属病院の西館にて、夜間に火災が発生したとの想定の下で消火・避難訓練が行われ、当院所属の歯科医師、看護師、歯科衛生士および事務職員が参加しました。

当日は、患者様を火災等から無事に救出するため、避難および誘導を病院スタッフが非常時に即応できるよう身をもって体験しました。

また、訓練終了後は非常時のみ使用する階段の経路確認も行いました。



愛知学院大学ホームページ（令和3年11月掲載）

■大阪歯科大学■

歯学部3年・井藤竜大さんが アリガタバチの新種発見。 英文誌に論文

先頃、歯学部3年の井藤竜大さんがアリガタバチの新種を発見し、論文が英文誌に掲載されました。井藤さんは高校時代からアリガタバチを中心とした昆虫の研究を始め、すでに和文短報を含め10本以上の論文を物にしていますが、新種の発見に加え、査読付き英文誌での発表は今回が初めて。

論文のタイトルは「A new species of *Odontepyris* (Hymenoptera: Bethylidae: Bethylinae) from East Asia」。この3月の「Journal of Insect Biodiversity」に掲載されました。今回井藤さんが発見したのは、ワシバナアリガタバチ属の1種。高校3年の夏に母校の奈良学園敷地内で採集したもので、捕虫網に入った瞬間「今まで見たことがない」と分かったそうです。その後、独自に調べを進めるうちに新種の確信が強まり、昆虫学の専門家である九州大学の三田敏治先生に連絡。大学の研究室へ伺ったり、オンラインで指導を受けるなどして、英語論文を書き上げました（三田先生は同論文の共著者）。

Odontepyris costatus（オドンテピリス・コスタークス）—井藤さんが命名した新種は、全長僅か4.3mm。頭部と胸部に特徴があり、「表面構造がカッコイイ」とは井藤さんの弁。「虫好きにとってロマンある発見で、やっぱり嬉しかった」と笑顔で振り返りました。



歯学部3年井藤竜大さん

物心つく前から昆虫好きという井藤さん。中高生の頃、大阪市立自然史博物館のジュニア自然史クラブで自然に親しんだ経験が、現在の昆虫研究につながっています。当時は、病気で通学が大変なときもありましたが、「博物館の方に調査に連れて行ってもらい、打ち込めるものをつくってもらったことが心の支えになりました」。論文も学芸員の方に勧められ、教授していただいた書き始めるように。

今や昆虫研究はライフワークと語る井藤さんが取り組むのが、アリガタバチの分類学。外見がよく似ていて今まで十分識別されてこなかった仲間の分類に挑戦し、彼らの学名を整理することを目標としています。

「特にアリガタバチの仲間は、蛾や甲虫など農業害虫に寄生するので、害虫の抑制に役立てることもできる。種類を分類し、ちゃんと名前を付けることによって、益虫として利用する研究につながれば」と抱負を話してくれました。今年度の授業科目「研究チャレンジ」では解剖学を選択し、井藤さんは今あらためて研究のイロハから学習しています。形態を観るという共通点がある解剖学と分類学。本学での学びによって、井藤さんの研究への志がますます磨かれんことを。

大阪歯科大学ホームページ（令和3年7月掲載）

数理・データサイエンス・ AI教育プログラム(リテラシーレベル) の認定について

2021年8月4日付けで大阪歯科大学の「ODU歯科医療連携プログラム 数理・データサイエンス・AI領域」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。(有効期限:令和8年3月31日)

本学では、科学的探究心の育成をディプロマ・ポリシーに定め、これまでも情報教育を行ってきました。そこで、数理・データサイエンス・AI関連の既存科目群を体系的に整理し、一見、関連性がないように見える歯科医療分野の科目がどのように数理・データサイエンス・AI分野と結びついているのか、受講者自身が意識し、理解を深めることで、実践力を身につけることを目標として、新たに「ODU歯科医療連携プログラム」として開設し、いち早く、認定制度への申請を行いました。

この認定により、本学の数理・データサイエンス・AI教育が、国の数理・データサイエンス・AI能力育成プログラムとして認められたことになります。今回の認定では国公私立大学等から67プログラムが認定され、大阪府内の私立大学では本学を含め2大学のみが認定さ

れました。

情報技術は急速なスピードで進展しています。これから医療人には医療・保健・福祉分野におけるAI技術研究を自ら進めることができる能力や、企業等の技術者と共に医療・保健・福祉分野におけるAI技術を推進する能力を身に付けることが求められています。今後も、プログラムの改善を行なながら、質の向上をはかってまいります。

大阪歯科大学ホームページ（令和3年8月掲載）

歯学部3年生がSCRP日本大会で準優勝しました



令和3年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会において、本学歯学部3年の栗山実久さんが準優勝を果たし、10月27日、表彰楯授与式が楠葉キャンパスで行われました。この大会での本学の上位入賞は2年連続6回目で、準優勝受賞は初めて(優勝:岡山大4年生)。

新型コロナウイルスの影響で昨年に続きウェブ開催となった今大会には、前回より3校多い21大学が参加。研究発表抄録・発表ビデオ・発表スライドによる一次審査通過者4名が8月20日、英語でのオンライン発表・質疑応答による二次審査に臨み、24日、同会ホームページ上で最終結果が公表されました。

栗山さんの受賞研究テーマは「高齢者の口腔ケアのための過酢酸を含む新しい歯科用消毒剤の開発」。誤嚥性肺炎を誘発しない高粘性・高殺菌性・高安全性の口腔ケア材料は、介護現場に変革をもたらす材料になりうるとして、新規口腔ケア材料の創製を目指すというものです。過酢酸(PA)とセルロースナノファイバー(CNF)の混合物を試作し、材料評価、殺菌実験、細胞毒性評価を行い、最適混合条件を予備的に検討。その結果、PAとCNFを最適混合させたPA-CNFスラリーは、高粘性を具備しつつ、高殺菌性・安全性・審美性を担保した新規口腔ケア材料候補となる可能性が示唆されたと

結論付けました。

授業を機に今回初めて本格的な研究にチャレンジした栗山さん。当初は別のテーマを設定していましたが、途中で行き詰まり方向転換。中央歯学研究所の本田義知准教授(現・口腔解剖学講座教授)の助言もあり、同じ材料を用いる本研究—高齢者の口腔ケア—に新たに着手しました。データの収集やスライド作りは大変でしたが、本田先生以下“チーム栗山”(口腔保健学科・橋本正則教授、欠損歯列補綴咬合学講座・張泓灝助教、中央歯学研究所・神田龍平助教)の手厚いサポートを受け、研究を遂行。最終審査では得意の英語で堂々とプレゼンテーションしました。

式では、川添堯彬理事長・学長から栗山さんに表彰楯が授与され、日本歯科医師会長のビデオメッセージが流れました。川添理事長・学長は、この受賞は本学にとって大いに誇らしいだけでなく、後輩の励みにもなると述べたうえで、栗山さんの日々の努力が実を結んだことを祝し「あなたの将来にとって今回のことは必ず力になると確信している」と激励しました。

チーム栗山のメンバーからも改めて祝福の声が寄せられ、ファカルティーアドバイザーの本田先生は「コロナ禍で大変だったにもかかわらず、よく頑張りました。このまま続けて、いろいろなことを頑張ってください」。また英語教室の藤田淳一准教授は英語で栗山さんを讃えました。“You did a very good job and we are all proud of you.”

「低学年で研究に取り組むこと自体、本当にチャレンジだった。これからも怖じ気まず、いろんなことにチャレンジしていくば、いろんな世界というか、景色が見られるのではないかと思います」。このたびの研究を振り返り、栗山さんは清やかな表情でこう話しました。SCRPのまたとない経験は、栗山さんの更なる飛躍を約束しているようです。

大阪歯科大学ホームページ（令和3年11月掲載）

■福岡歯科大学■

学校法人福岡学園 開学記念式典を挙行

令和3年7月27日、福岡歯科大学本館9階講堂において、学校法人福岡学園開学記念式典が執り行われました。

式典には、水田理事長をはじめ、学内外の関係者が出席し、名誉教授称号授与、永年勤続者表彰、福岡歯科大学・福岡医療短期大学 最優秀教育改善賞表彰、福岡歯科大学・福岡看護大学特待生表彰、福岡医療短期大学



理事長挨拶



理事長特別賞表彰

特別奨学生表彰、研究優秀賞表彰が行われました。また、令和3年度は、福岡学園コロナウイルス管理室に理事長特別賞、福岡医療短期大学の学生に福岡医療短期大学校章デザイン優秀賞が併せて表彰されました。

福岡学園広報誌 Vol.29 No.4 (第112号)
(令和3年10月発行)

福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和3年度の福岡歯科大学学生研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。

平成29年度にスタートしたこの制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心をもっている学生を



支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対して1件あたり20万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

令和3年度は、4名の口腔歯学部生がリサーチ・スチューデントに採用され、研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見究める能力を磨いています。

福岡学園広報誌 Vol.29 No.3 (第111号)
(令和3年7月発行)

福岡歯科大学 個別面談会を開催

在学生の保護者を対象とした「個別面談会」が令和3年8月1日・22日、福岡歯科大学において開催されました。

これは保護者・大学が一体となって、今まで以上に学生をサポートする環境を構築することを目的に、平成31年度より開催しているものです。

当日は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで、対面のほか電話での面談も行いました。両日合せて268名もの保護者の方にご参加いただき、参加された保護者の方からはさまざまご意見もありましたが、学生の様子や大学の取り組みが良く分かりとても良い機会になったと好評を得ました。



個別面談会の様子

福岡学園広報誌 Vol.29 No.4 (第112号)
(令和3年10月発行)

福岡歯科大学医科歯科総合病院 職域接種の実施/福岡市のワクチン 接種支援へ

医科歯科総合病院は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、本学園の学生および教職員とその家族・親族・近隣住民等における希望者を対象とした職域接種を実施しています。職域接種の実施によって地域負担の軽減や接種の加速化を図り、安心安全な教育・研究・医療環境

を学生や教職員、地域の皆さんへ提供しています。

また、ワクチン接種の担い手不足が深刻化する中で特例により歯科医師も容認されたことを受け、福岡市からの要請のもと、本学園の医師、看護師に加え、歯科医師も集団接種会場において支援を行いました。

支援に先駆け、歯科医師を対象としたワクチン接種の打ち手講習会が院内で実施されました。新型コロナウイルス感染症に係るワクチンに関する基礎知識やワクチン接種に必要な解剖学の基礎知識などを座学で学んだ後、模型と実際の注射器を使ったシミュレーションが行われ、参加者は打つ箇所や一連の流れなどを確認しました。

今後も政府および自治体の方針に基づき、新型コロナウイルス感染症の早期収束に向けて最大限の協力をを行い、社会貢献に努めることとしています。



看護師によるワクチン接種の様子



歯科医師によるワクチン接種の打ち手講習会

福岡学園広報誌 Vol.29 No.4 (第112号)
(令和3年10月発行)

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	三浦廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
副会長	大友克之	朝日大学学長
副会長	本田和也	日本大学常務理事・歯学部長
副会長	藤井一維	日本歯科大学学長
専務理事	羽村章	日本歯科大学生命歯学部教授
常務理事	櫻井孝	神奈川歯科大学学長
常務理事	高橋裕	福岡歯科大学学長
常務理事	一戸達也	東京歯科大学副学長
常務理事	横宏太郎	昭和大学歯学部長
理事	大野敬	奥羽大学歯学部長
理事	川添堯彬	大阪歯科大学理事長・学長・歯学部長
理事	大久保力廣	鶴見大学歯学部長
理事	古市保志	北海道医療大学歯学部長
理事	宮田淳	明海大学理事長
理事	小方頼昌	日本大学副学長・松戸歯学部長
理事	矢ヶ崎雅	松本歯科大学理事長
理事	後藤滋巳	愛知学院大学歯学部長
監事	牧村正治	日本大学名誉教授
監事	菱田健治	朝日大学監事

(R4.3.31現在)

教育・研究部会

部会長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
瀬川洋	奥羽大学歯学部学生部長
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
橋本正次	東京歯科大学副学長
楳宏太郎	昭和大学歯学部長
今村佳樹	日本大学歯学部学務担当
小見山道	日本大学松戸歯学部学務担当
沼部幸博	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
榎木恵一	神奈川歯科大学副学長
早川徹	鶴見大学副学長・教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
田村康夫	朝日大学副学長・歯学部長
後藤滋巳	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・教務部長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R4.3.31現在)

病院部会

部会長：楳宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤和朗	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
杉田俊博	奥羽大学歯学部附属病院長
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
片倉朗	東京歯科大学水道橋病院長
馬場一美	昭和大学歯科病院長
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
河相安彦	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
山口晃	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
五味一博	鶴見大学歯学部附属病院長
矢島安朝	松本歯科大学病院長代行
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
長尾徹	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長
阿南壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.3.31現在)

経営部会

部会長：大友 克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
鈴木英二	北海道医療大学理事長
高橋真	岩手医科大学事務局長
齋藤高弘	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
若井祐次	東京歯科大学法人事務局内部監査室長
倉口秀美	昭和大学学事部長
石崎和文	日本大学歯学部事務局長
金森和人	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聰	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
下村錢三郎	大阪歯科大学常務理事
井手孝行	福岡歯科大学事務局長

(R4.3.31現在)

広報委員会

委員長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
近藤 敬	岩手医科大学歯学部教務課長
佐藤和義	奥羽大学事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彥	日本大学歯学部庶務課長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
田口潤	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
繩纈力	朝日大学入試広報部入試広報課長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R4.1.31現在)

研修委員会

委員長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
近藤 敬	岩手医科大学歯学部教務課長
佐藤和義	奥羽大学事務長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
若井祐次	東京歯科大学法人事務局内部監査室長
大矢 敦	昭和大学人事課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
高橋孝幸	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
児玉孝	大阪歯科大学法人事務局長
川野庸一	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R4.1.31現在)

受験生確保対策委員会

委員長：本田 和也
日本私立歯科大学協会副会長
日本大学常務理事・歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
佐々木光章	岩手医科大学学務部次長
佐藤和義	奥羽大学事務長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
中村武彦	昭和大学入学支援課長
横田正	日本大学歯学部教務課長
中澤謙司	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部係長
菅谷彰	神奈川歯科大学副学長・教学部学生担当部長
西村勇気	鶴見大学入試センター事務長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
香田肇	朝日大学歯学部事務課長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・教務部長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R4.1.31現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏名	大学名・役職名
川上 智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤 健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森 徹雄	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
船津 敬弘	昭和大学歯学部教授
武市 収	日本大学歯学部卒後教育担当
平山 聰司	日本大学松戸歯学部卒後教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋 桂	神奈川歯科大学附属病院総医長・研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川 信之	松本歯科大学歯学部長
藤原 周	朝日大学医科歯科医療センター長
荒木 章純	愛知学院大学歯学部教授
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
阿南 壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.3.31現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学副学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦 廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
高田 訓	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学歯学部長・病院長
一戸 達也	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長
長谷川 篤司	昭和大学歯学部教授
飯沼 利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
小宮 正道	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
五十嵐 勝	日本歯科大学生命歯学部教務部長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
星憲幸	神奈川歯科大学附属病院副病院長・教育企画部教授
友成 博	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学病院副歯科病院長
石神 元	朝日大学歯学部臨床実習センター長
長谷川 義明	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学附属病院副病院長
阿南 壽	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.3.31現在)

附属病院感染対策協議会

議長：横 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
板橋 仁	奥羽大学歯学部准教授
星野 優範	明海大学歯学部医療安全執行部長
高野 正行	東京歯科大学水道橋病院副病院長
代田 達夫	昭和大学歯学部教授
米原 啓之	日本大学歯学部学部次長
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部院内感染予防対策委員長
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部院内感染防止対策委員長
沢井 奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
五味 一博	鶴見大学歯学部附属病院長
栗原 祐史	松本歯科大学教授
安田 順一	朝日大学歯学部准教授
宮地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R4.3.31現在)

賛助会員企業

紹介コンナード



株式会社ジーシー

株式会社ジーシーは、おかげ様で2021年に創業100周年を迎えることができました。

「生きる力を支える歯科医療」に携わるジーシーでは、臨床データに裏付けられた安全性・有効性に関するEBD (Evidence-based medicine) を蓄積し、「研究開発」「生産・製造」「営業・販売」それぞれの分野が互いに関わりあいながら高品質な製品を生み出し、世界の人々に真の健康を提供することを目指しています。

歯科材料製品や歯科用ユニット、デジタル関連製品において開発から販売まで一貫して手掛け、独自の品質マネジメントによる高い品質管理を実現しております。

創業100周年を機に、その先を見据えた「Vision 2031：健康長寿社会を実現する歯科界のリーディングカンパニーとなる」を制定し、持続的成長の実現に努力するだけでなく、常に弊社の目的である「口腔健康の向上を通じ地球社会に貢献する」に導かれ、歯科分野における社会的課題の取り組みをリードしていく所存です。

事業内容

歯科材料及び関連機械・器具の製造販売
歯科材料及び関連機械・器具約845種



代表取締役社長
中尾 潔貴

所在地

〒113-0033
東京都文京区本郷3-2-14
TEL 03-3815-1815
FAX 03-3815-1751
<https://www.gcdental.co.jp>

株式会社YDM

世界中の人々に、世界や文化に、医療事業を通して届けたい高品質。

おかげさまで約70年にわたり、「先生の良きパートナー」をスローガンに、歯科用器械器具メーカーとして愛されてきました。その間、歯科医療の進歩を確実にサポートするため、市場を見極めた開発力と完璧な技術力、そして安定供給できる品質管理力の3つの力で医療用鋼製小物といえばYDMという代名詞までいただくことができ、大変光栄なことと思っております。今後も皆様からのご支援にさらに応えられますよう、また環境への取組みや医療ボランティアなどでも協力できますよう、医療事業を通して世界の人々の生活と文化に貢献してまいります。

代表取締役 山浦 元裕

事業内容

医療機器の開発、製造、販売



所在地

〒114-0014
東京都北区田端6-5-20
TEL 03-3828-3161
FAX 03-3827-8991
<https://www.ydm.co.jp>

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
岩手医科大学歯学部
奥羽大学歯学部
明海大学歯学部
東京歯科大学
昭和大学歯学部
日本大学歯学部
日本大学松戸歯学部
日本歯科大学生命歯学部
日本歯科大学新潟生命歯学部
神奈川歯科大学
鶴見大学歯学部
松本歯科大学
朝日大学歯学部
愛知学院大学歯学部
大阪歯科大学
福岡歯科大学

■賛助会員■

(株)シラネ	沖歯科要材(株)
(株)ヨシダ	(株)J.M.O r t h o
デンツプライシロナ(株)	(株)トクヤマデンタル
長田電機工業(株)	(株)ミクロン
(株)東京技研	(株)モリタ東京製作所
(株)ジ一シ一	(株)Y D M
吉田精工(株)	サンメディカル(株)
(株)八堯	(株)田中歯科器械店
ササキ(株)	医歯薬出版(株)
(株)モリタ	(株)ブイ・エス・シー
(株)ニッシン	日本治水(株)
(株)松風	(株)E P A R K
(株)モリタ製作所	メデイア(株)
日本歯科薬品(株)	
(株)玉井歯科商店	
(株)ADI.G	
石福金属興業(株)	

◇編集後記◇

協会広報第83号をお届けします。

今号の巻頭言は、岩手医科大学の小川彰理事長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願ひいたします。

広報委員長（協会常務理事）

高橋 裕

令和4年3月31日発行

日本私立歯科大学協会広報 第83号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化(初代専務理事 宮田侑先生による)